

## 応用数学合同研究集会から日本数学会応用数学分科会への提携提案

平成 23 年 10 月 15 日

2011 年度 応用数学合同研究集会 事務局

中本敦浩，樋口雄介，小田芳彰，石渡哲哉

### <提案>

日本数学会応用数学分科会と応用数学合同研究集会が応用数学分野のさらなる発展を目指すため、それぞれの会が持つ特性を活かしつつ、連関を図る。そこで、応用数学合同研究集会を日本数学会応用数学分科会の主催とする。

また、当該研究集会は、日本数学会応用数学分科会の総合シンポジウムとしての役割りを担うものとする。ただし一方で、当該研究集会研究代表者は従来と同様に、広い意味で応用数学に従事する者と解釈し、日本数学会会員に限定しないものとする。さらに参加者、講演者ともに日本数学会会員に限定せず、講演者は現状と同じく代表者の承諾の下で広く受け入れることとする。

### <理由>

当該研究集会は、比較的大きな著名な研究会であり、代表者近辺の応用数学関係者には根幹を占めるものである(「追記」を参照)。しかし、数学以外の分野から見られたときに、“当該研究集会が各種学会とは何ら関係のない個人研究会”として扱われる故にせつかくの講演実績の評価が低くなる傾向がある、という報告が運営委員の中からはなされた。これは昨今の競争的資金の獲得や若手研究者の就職などといった各種分野を交えた中での競争においてはたいへん残念なことであると言える。また、一方で日本数学会応用数学分科会委員経験者より、日本数学会の各分科会において分科会を代表する総合シンポジウム(大シンポとも呼ばれる)が存在しないのは応用数学分科会だけである、という事実も指摘された(下記<<資料>>も参照)。以上の2つの点に対して、「応用数学合同研究集会」と日本数学会応用数学分科会との連関が解決の一步となると考えられる。

### <提案における経緯>

応用数学合同研究集会側は、上記の理由での応用数学分科会との連関の提案提出を、新旧研究代表者や関係者との意見交換で決定し、2011年2月25日に正式に応用数学分科会へ提出した。その際、応用数学分科会の活動を尊重するとともに、互いの独立性を担保するためには、連関のあり方として「提携、連携、協力、後援」程度の

弱い文言を用いたものが適切と考えたものとなっていた。2011年9月29日に開催された応用数学分科会分科会委員会にてこの提案が議論され、趣旨および内容は承諾されたものの、連関のあり方としては、

当該研究集会を応用数学分科会「主催」にしてはどうか

という分科会側からの追加提案を受けた。これは、当該研究集会を分科会の「主催」とするなら分科会のみによる決定が可能である一方で、「提携、連携、協力、後援」といった弱い文言を用いてしまうと、分科会が数学会本部に本件の承諾をとることが必要となり、その際に分科会と合同研究集会との弱い関係の度合いの不明確さ、さらに、毎年の科研費の取得状況により研究代表者が入れ替わることによる主催団体の不明確さから、難色を示される可能性が高い、ということである。さらに分科会側からは、「主催」という文言を用いても、合同研究集会における研究代表者、参加者、講演者ともに日本数学会会員でなくてもよい旨が示された。

この応用数学分科会からの追加提案は、研究集会独自の特色を損なわずにより高い「格付け」が受けられるものとなっているため、当該研究集会としては歓迎するものとする。したがってこの追加提案を全面的に受け入れ、あらためて連関に関する文言を修正した本提案を提出するものである。

<日本数学会応用数学分科会との連携における具体的方針>

○応用数学合同研究集会から分科会へ協力できると考える事項:

- ・応用数学合同研究集会講演申込者に対し、「応用数学合同研究集会報告集」の原稿の締切告知の際、日本数学会の一般講演申込み締切についてもアナウンスする。
- ・応用数学合同研究集会報告集の表紙に「日本数学会応用数学分科会主催」と明記する。
- ・「応用数学合同研究集会報告集」最後のページあたりに日本数学会の今後の開催日程等を記載する:(記載内容の詳細については、必要があれば当該研究集会運営委員、連絡責任者である分科会委員および各学会担当者と協議のうえ決定)

○分科会から応用数学合同研究集会へのご協力をお願いしたい事項:

- ・応用数学合同研究集会報告集の表紙に「日本数学会応用数学分科会主催」の記載を許可。
- ・日本数学会の分科会 **web** ページでの、応用数学合同研究集会のアナウンスおよび当該研究集会の **web** ページへのリンク張り。

・秋の数学会の分科会会場での分科会委員による応用数学合同研究集会の日程等のアナウンス.

<<資料>>

「分科会関連の研究集会シンポジウム」(日本数学会公式 **web-site** 分科会のリスト <http://mathsoc.jp/section/>より)

- ・数学基礎論および歴史分科会:数学基礎論サマースクール, 数学基礎論若手の会
- ・代数学分科会:代数学シンポジウム
- ・幾何学分科会:幾何学シンポジウム
- ・函数論分科会:函数論シンポジウム
- ・函数方程式分科会:研究集会「微分方程式の総合的研究」
- ・実函数論分科会:実解析学シンポジウム, 実函数論函数解析学合同シンポジウム
- ・函数解析学分科会:実函数論函数解析学合同シンポジウム
- ・統計数学分科会:統計学関係: (大シンポに対応するものは不明だが幾つか存在)  
確率論関係:「確率論シンポジウム」(通称「大シンポジウム」)
- ・応用数学分科会:なし(セミナー情報は解析系のみ)
- ・トポロジー分科会:トポロジーシンポジウム

「追記:応用数学合同研究集会について」

応用数学合同研究集会は, 1980年代前半に, 当時の科研費総合研究の応用数学関係諸班をまとめた共同の研究集会開催の趣旨で, 故山口昌哉京大教授(当時)が中心になって旗上げをしたものであり, 当初は京都大学で毎年開催されていた. その後は会場を龍谷大学に移し, 科研費基盤研究の関係者が合同する形で例年離散系と解析系のふたつのセッションで行われており, 予稿集も兼ねた報告集が毎年関係者の予算により発行されている. 応用数学関係者にとっては, いわば歳末の年中行事といえるのが現状である. 研究集会自体は, 3日間行われ, 離散系解析系とも例年それぞれ 40件程度の講演があり, 参加者も全体で 100人を優に越えている. また, 並行して開催される両セッションの交流をはかるべく, 3年前より全参加者が集う約 90分の合同セッションも開催している. 歴史をまとめたものはないものの, 一松信京大名誉教授によって報告された文章(応用数理 15(2), 181-182, 2005-06-24, 日本応用数理学会)を参考資料として挙げさせていただく.

<http://ci.nii.ac.jp/naid/10016594332>